

酒々井町

郷土研究会会報

第94号

平成11年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

「町制施行百十周年

二十一世紀の架け橋」

酒々井町長 綿貫登喜夫

酒々井町郷土研究会の皆様におかれましては、郷土史の研究を通じて平素より、「生涯学習」の実践に取り組み、もって文化活動の輪を広げておられますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

酒々井町は美しい豊かな自然を背景として悠久の歴史と文化に育まれた町であり、本年、町制施行百十周年を迎えました。同時に時代は二十一世紀に向けて、大きな変革期にあります。

このような時機、これからのまちづくりを考える場合、町を更に活性化し、住みよく文化豊かな郷土とし

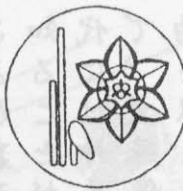
て発展させ、町民の皆様が「酒々井町に住んでよかった、酒々井町にこれからも永く住みたい」と実感できるまちづくりを進めることが、私に課せられた大きな責務であると考えております。

このため、新たな世紀への架け橋となる町制施行百十周年を契機として、更に酒々井町らしい文化の創造を目指し、たまちづくりを努めて参ります。

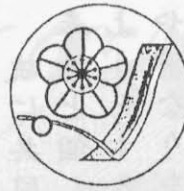
皆様におかれましては、より一層地域文化の進展のため、ご支援の協力を賜りますようお願い申し上げます。酒々井町郷土研究会の益々のご発展と会員皆様のご多幸を祈念いたしましたし、ご挨拶いたします。



町の鳥【メジロ】



町の花【水仙】



町の木【梅】

町制百十周年記念絵馬展
青木朝次
自然豊かな歴史のある酒々井町が誕生して早一〇年を迎えました。この輝かしい年にふさわしく町制百十周年記念事業が各分野において実施されておりますが、その一環として酒々井町全域の絵馬を公民館へ一堂に会し酒々井町の「絵馬展」として広く皆様方に見て頂くことになりました。

各社寺に奉納されている絵馬は、普段皆様の目に触れることのない先人の残された信仰の表現であり大切な文化財ともいうものばかりですが、関係者の皆様方の格別の御尽力と御好意により展示の運びとなりました。厚く御礼申し上げます。

昔の人の信仰や生活に密着した各種の絵馬をゆつくりと観察して頂いて、在りし日の昔を想像して絵馬に語りかけて頂いたら百十周年記念行事としての絵馬展に全力を傾けた郷土研究会としてこれに勝る喜びはありません。どうぞ知人友人お誘い合せて御来場下さいますよう御待ちしております。

絵馬展開催によせて

会田秀雄

酒々井町一一〇年記念事業の一環として当町における寺社奉納絵馬展が開催されることになりました。祖先が残した文化遺産の絵馬を一堂に展覧することの喜びが深くわき出る思いです。

昨年は小規模ながら郷土研で『絵馬と信仰』と題して絵馬展を開催し大きな成果をうる事が出来ました。このたびは出来る限りの絵馬を一堂に集め展覧に供し神佛に対して魂のこもった手紙とも思える多種多様な絵馬を多くの皆様に見ていただきたいと思えます。

絵馬の歴史は古く、奈良時代の馬図絵馬が静岡県・伊場遺跡から出土しましたが現在はこれが一番古く平安時代にも絵馬の風習があったと伝えられています。

鎌倉時代も平安時代の流れを汲み、室町期になると秋篠寺や当麻寺、とくに興福寺に絵馬が多く発見されていますが、佛教からくる信仰のせいのか文殊菩薩図柄が多くあったという事です。小絵馬研究者石子順造氏に

よるとこのような文殊像が多数出た事は興福寺の若い学僧達が文殊の加護を祈願し無事に責務を終えた事を感謝するため奉納したものであることが裏面に書かれている銘文から知ることが出来ます。つまり奈良時代には神馬図の絵馬は公式的なもので、文殊像は個人的なものとして奉納されました。

故に共同体的な行事としての絵馬奉納と個人の喜怒哀楽をすくい上げようとする佛教各種の行事とのずれや重なりをうかがう事が出来ます。特に密教が在来の民間信仰を積極的に活用しようとして民衆の祈願の形式を寺院でも生かしながら信仰の対象や佛を象徴する持ち物、あるいはその眷属、さらには祈願の内容まで描かれるようになったというのが通説である、といわれています。

その他多くの論評もありますがそれはそれとしてほとんどの文化は江戸中期以降から明治時代にかけて開化したと私は信じています。当町にある多種多様な絵馬の中に伊勢参り、身延山参り、日光山参りの奉納額が十額程ありますがすべて明治中期に奉納されたものです。こ

の不便な時代に幾日もかけて信仰のためとはいえよく出かけたものだと思います。

案ずるより生むが易して江戸時代における幕藩体制の下で参勤交代により街道が整備され幕府の交通政策で宿場機能も充実しました。

そして明治に移行して更に陸・海路が充実して案外旅が楽に出来るようになつたと思えるのです。特に伊勢参りが多かつたようでは御師(御祈禱師の略称で神社・寺社で祈禱する人の総称。毎年祈禱の神札や土地の土産物を持って地方の旦那を歴訪し、また旦那がその神社に参詣する場合にはこれを出迎えて自邸に宿泊させ参詣・祈禱の便宜を計った)の力が大きかつたようです。

このようにして時代が下がるにつれて社会生活は複雑になり悩みも複雑化・深刻化し祈願の内容も変化して個人的現世的利益的立場からさまざまな絵馬が発生しました。

奉納絵馬に扁額大絵馬があります。これは本来の性格と違つた美術品の部類に入るもので本流はあくまでも庶民の小絵馬こそが真の絵馬ではないかと思えるのです。

御成街道探訪(七)に

参加して

浜口信義

七月十二日の御成街道探訪は、千城台駅(モノレール)から千葉市富田町までである。この間の街道は、坂、林、畑があり、また集落の中を通る街道の道幅は狭く往時を偲ばせ変化に富んだ風景をつくっている。史跡は提灯塚(一里塚)、高札場跡、金光院、御茶屋御殿跡、椎の老木がある一里塚などがある。今回とくに興味をもったのは長屋門のある石井家に保存されている「五榜の揭示」という少し変わった名前の高札である。

五榜の揭示とは明治維新政府が発表した国民の守るべき五つの事項で、慶応四年三月太政官が公示している。日本史年表で見ると同年七月江戸が東京に改称され、九月明治に改元されている。

五つの事項の一つにキリスト教禁止がある。これは幕府の政策を継承したもので、このため明治元年に長崎の浦上天主教徒が処刑されている。キリスト教の解禁は明治六年であるから、この処刑はキリスト教徒受難

の最後ではないかと思われる。私たちが訪ねた石井家で五榜の揭示の实物を拝見させて頂いたばかりでなく、茶菓子、自家製のラッキョウ漬けなどの接待をうけ恐縮した。帰りはバス便が二時間に一本と少なく中田町公民館で西瓜をいただいた後、千城台駅へ徒歩で戻った。交通不便な地域だけに開発の波から取り残され、それが幸いして貴重な史跡が残されたという実感が残る一日であった。

資料作成、下見、解説など青木会長以下各役員のご努力により楽しく御成街道の探訪ができたことを感謝します。

青梅方面の旅に参加して

岡田利光

前日までの猛暑が、や、緩んだ八月二十四日に青梅方面の旅に参加した。

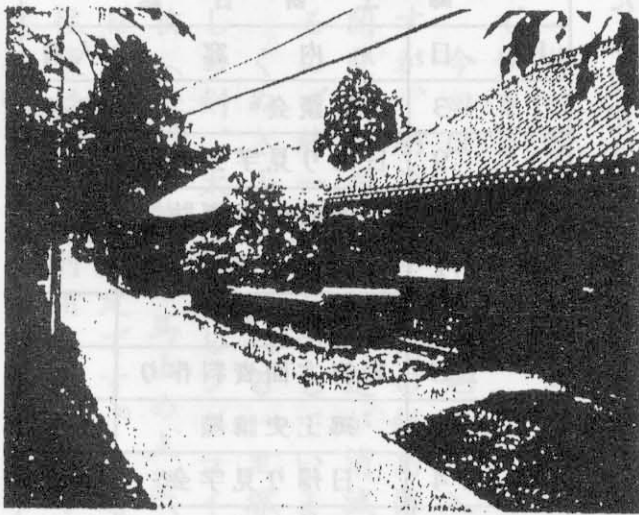
43名を乗せてバスは定刻に公民館前を出発、最初に都指定有形文化財である旧吉野家住宅を訪れた。青梅街道沿いの名主の旧家で入母屋造り江戸後期の上層民家の部屋の特徴がよく残っている。

次いで四季折々の花が沢山ある歴史の寺、塩船観音寺の重要建造物を拝見したあと、皆様楽しみにしていた昼食は川合玉堂ゆかりの「澤乃井まゝごと屋」で豆腐、ゆばを中心に満喫できた。

午後は金剛寺境内にある青梅の地名の由来である、実が熟しても黄色くならず青いまゝという老木「誓いの梅」をじっくり鑑賞した。

このほか櫛かんざし美術館および市立郷土博物館を見て青梅市の史跡を偲ぶことができました。

楽しい一日でした。役員の皆様さん、ありがとうございました。



金親町の現況

講演会に参加して

森本一美

知り合いの郷土研究会員さんより講座のチラシを頂き「印旛沼周辺の民謡について」の演題にひかれ参加した。顔見知りの出迎えを受け、とまどいながら場内に入った。中は知り合い半数、他半分ほどの方々が席に着いていた。参加の目的は地域の民謡なるものがどれ程の数あるのか、どのような文句の歌なのか期待してのぞんだ。

講師の先生の講演が始まり先生と目があつた時、今日は私の知らなかつたことが聴けると直感した。その目は、私の思っていた大学の先生なる概念をふっ飛ばしてくれた。話も期待に違わず私を魅了した。話も民謡はタミのウタ。人が朝起きてから夜ねるまでの生活順序をおこりこみ歌にしたのが民謡のおこりである。うとのこと。家族にはリズムであり生活を地域的な集合体として大事にしきたり等、その地に生まれつた生活のための共同体の間から成りたつた歌。生活経典のように歌いながら次の世代に伝えることを教え

郷土研日誌			
月	日	内容	人員
7	3	史談会	24
	9	日帰り見学会受付	3
	12	御成街道探訪	28
8	11	編集会議	4
	13	研修部会	9
	18	青梅方面資料作り	2
	22	郷土史講座	63
	24	日帰り見学会	43
	28	編集会議	8
	28	運営委員会	20
9	4	史談会	20
	6	中野方面下見	4
	20	編集会議	7
	22	名勝探訪	28
	25	発送	20
	25	運営委員会	20

あとがき

たものだったのだらう。また昔の労働の過酷さを歌うことで気持ち張られたたせリズムをとって、景気づけられた労働歌でもあることに民謡の本質的なものを納得した。

花見と聞けば浮かれた酒宴を思い浮かべるが、花より団子ではないが、民謡に歌われるお米の黄金色の花を思い浮かべる自分になるでしょう。生活慣習に大きい役目をしてきた大事な民謡を忘れてしまふ現代を愚かとはいわぬが残念です。先生の気取らぬ講演に感謝し、後世のために民謡について語り続けて下さい。仕事のリズムに民謡を口ずさんでみたいと思えます。

青梅方面会計報告	
収入	8,500円×43名 = 365,500円
支出	八街観光欄 342,770円
	諸雑費 19,980円
	計 362,750円
残	27,500円(会計へ)

今年の夏は厳しい暑さが続きました。八月の樋口先生の『印旛沼周辺の民謡について』の話は、いかにがてしたてしようにか。労働の苦勞を忘れるためや収穫を互いに喜ぶ時など、いろんなことと歌を歌いあい、この歌が各地の人々の間に伝わったものが民謡だとのこと、とても身近に感じられましたね。さて、前号の浜宿湊の記事を読んだあと、ぶらりと浜宿を訪ねて見ました。辺りは緑一面の水田が広がり、遠くに酒々井の駅舎や順天堂大学キャンパスが見え、振り返ると京成線軌道の奥に本佐倉城跡の城山がゆつたりと構えていて、なんとなく当時の賑わいが見え行かれてはどうでしょう。

見学

案内

日 帰 り 見 学

十一月十七日(水) 雨天決行

旭 市 方 面



秋深まる中、久し振りに町バスで近郊を見学しましょう。多数の参加を御待ちします。

【長禅寺】真言宗智山派で境内に血の池と呼ばれる小さい池があり池にまつわる伝説が残されている。

【竜尾寺】和銅二年聖武天皇の御代に雨乞いの祈とうをしたところ、満願の日に一頭の竜が現れ、七日七夜、大雨を降らせ民を救った。その竜が三つに裂けて頭が落ちた所が榮町の竜角寺、腹が落ちた所が本埜村の竜腹寺、尾の落ちた所が八日市場の竜尾寺、何ともスケールの大きな縁起ばなしてすね

【飯高寺】通称、飯高壇林。天正八年(一五八〇)三月、日正上人が土地の豪族平山刑部少輔の城跡に法華

宗の学問所(壇林)を建て妙雲山法輪寺と称したのが始まり。日生上人のあと京都から日尊上人が入山した。日尊上人は徳川家康とつながりがあったことから天正十八年、家康から土地三〇石を寄進され寺号を飯高寺に改めたといわれる。
以後徳川幕府の外護を受けて榮元日蓮宗飯高壇林として各地からの修行僧で賑わっていた。

御成街道探訪(八)

十一月二十九日(月)
雨天代替十二月六日(月)

太 郎 坊 方 面

前回富田町の椎の古木・一里塚まで歩きました。

今回は八街市の沖地区に入るのですが、明治初年九州の鍋島藩士らの開墾地に当てられ街道が消滅しているのので約一キロウ回しています。

くぬぎ山と呼ばれる一里塚、馬渡しの剣、太郎坊、ピンダライ池跡、牧(小間子牧)の馬止め土塁、滝台、

日吉神社迄の予定です。目的地への往復はバスを利用しますのので参加人員の制限があり費用もかかります。

名 勝 探 訪

十二月八日(水)
雨天代替十二月十日(金)

駒 込 方 面

師走、何かと忙しい時期ですが、今回は駒込方面を歩きます。

【六義園】駒込駅を降りて本郷通り、落葉した銀杏並木を通り六義園の正門に向かいます。五代將軍綱吉の信任が厚かった川越藩主・柳沢吉保が元禄十五年(一七〇二年)に築園、小石川後楽園と共に江戸の二大名園といわれるすばらしい回遊式築山泉水庭園で、六十五歳以上は身分証明書提示で入園料無料です。

【吉祥寺】諏訪山吉祥寺(曹洞宗)享和二年(一八〇二)再建の堂々たる山門を構える祥刹、長禄二年(一四五八)太田道灌が江戸城築城の折、井戸を掘ったところ『吉祥』の文字を刻した金印を発見、これを瑞祥として堂宇を建立。鳥居耀蔵(江戸南町奉行)榎本武揚(江戸末期幕臣)川上眉山(小説家)二宮尊徳(農政家)の墓碑があります。

【目赤不動尊】大聖山東朝院南谷寺は関東三十六不動霊場巡り第十三番札所の修行道場で天台宗のお寺です。

郷 土 研 行 事 案 内 平成11年10月～12月

	10月	11月	12月
史談会	休講	休講	4日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」⑤ 講師：高橋健一先生
野草観察会	10月5日(火) 代替 10月8日(金) 弁当・飲み物持参 集合時間・場所 9:30 公民館 観察場所 伊篠方面 (午後公民館で勉強会をします)		
日帰り 見学会	11月17日(水) 『旭市方面』 中央公民館 8:30集合 会費2000円(昼食代を含む) 定員 33名 (4:30帰着予定) 申込受付 10月27日(水) 9:00～10:00 中央公民館ロビー キャンセル 実施3日前までに青木朝次宅へ ☎		
行程	中央公民館 —— 旭市・海宝寺 —— 長禅寺 —— 東漸寺 —— 竜尾寺 —— 飯高壇林 —— 中央公民館		
御成街道 探訪 (8)	11月29日(月) 『太郎坊方面』 中央公民館8:50集合 雨天代替12月6日(月) (弁当・飲み物持参) 申込受付 10月27日(水) 9:00～10:00 中央公民館 定員 28名 費用 1500円(バス代) 中央公民館 —— 四ツ木 —— 椎の古木(一里塚) —— 四ツ木 —— 鍋島開墾地 —— 四ツ木 —— 沖十字路 —— 大 —— くぬぎ山(一里塚) —— 大 —— 太郎坊(小間子馬神社) —— 大 —— ビンダライ池跡 —— 大 —— 馬止め土塁 —— 大 —— 滝台 —— 四ツ木 —— 日吉神社 —— 四ツ木 —— 中央公民館(16:00頃) (場合によりコースの変更あり) (歩行距離約6キロ)		
名勝探訪	12月8日(水) 『駒込方面』 京成酒々井駅8:20集合 雨天代替12月10日(金) 京成酒々井 —— 四ツ木 —— 日暮里 —— 四ツ木 —— 駒込 —— 大 —— 六義園 —— 大 —— 目赤不動尊(南谷寺) —— 大 —— 吉祥寺 —— 大 —— 駒込 —— 四ツ木 —— 日暮里 —— 四ツ木 —— 京成酒々井 (場合によりコース変更あり) (弁当・飲み物持参)		
行程	京成酒々井 —— 四ツ木 —— 日暮里 —— 四ツ木 —— 駒込 —— 大 —— 六義園 —— 大 —— 目赤不動尊(南谷寺) —— 大 —— 吉祥寺 —— 大 —— 駒込 —— 四ツ木 —— 日暮里 —— 四ツ木 —— 京成酒々井		